

NIKKOR

NIKKOR Z 600mm f/4 TC VR S

活用ガイド

- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」(5 ページ) も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるようにしてください。

目次

はじめに.....	4
ご使用の前に.....	4
安全上のご注意.....	5
レンズの使い方.....	8
各部の名称と機能.....	8
カメラへの取り付け方・取り外し方.....	20
レンズフードの取り付け方・取り外し方.....	25
ストラップの取り付け方.....	27
レンズをレンズケースに収納するときのご注意.....	28
メモリーリコールの使い方.....	29
内蔵テレコンバーターについて.....	31
三脚座リングの使い方.....	36
手ブレ補正機能.....	38
フィルターについて.....	39
取り扱い上のご注意.....	45
お手入れについて.....	47
資料.....	48
カメラの AF 補助光を使用するときのご注意.....	48

内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときのご注意.....	49
アクセサリ.....	50
仕様.....	51
サービスとサポート.....	53
ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内.....	53
ニコンイメージングサポートページのご案内.....	54

はじめに

ご使用の前に

ご使用の前に本書をよくお読みの上、正しくお使いください。また、カメラの説明書もご覧ください。

- このレンズは、ニコン Z マウントのミラーレスカメラ専用です。
- カメラのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアが最新になっていない場合、レンズを正しく認識しなかったり、機能の一部が使用できないことがあります。最新のファームウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

安全上のご注意

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

本書をお読みになった後は、いつでも参照できるようにしてください。



警告 「死亡または重傷を負うおそれがある内容」です。



注意 「軽傷を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

お守りいただく内容を、以下の図記号で区分しています。

	してはいけない内容です。
	分解、修理または改造してはいけない内容です。
	人体やものに密着させてはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。



警告

	分解、修理または改造をしない 落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に触らない 感電やけがの原因になります。
	熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、直ちにカメラの電源を取り外す 放置すると、発火、やけどの原因になります。
	水でぬらさない ぬれた手で触らない 感電や発火の原因になります。
	引火、爆発のおそれのある場所では使わない プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、爆発や火災の原因になります。
	レンズで直接太陽や強い光を見ない 失明や視力障害の原因になります。
	幼児の手の届くところに置かない 故障やけがの原因になります。 小さな付属品を誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。 <u>飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。</u>
	ストラップ類を首に巻きつけない 事故の原因になります。
	高温環境や低温環境では、直接触らない やけどや低温やけど、凍傷の原因になることがあります。



注意



レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光して、内部部品の破損や発火の原因になることがあります。
逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。画角から太陽をわずかに外しても、発火の原因になります。



夏場の車内や直射日光の当たる所など高温環境に放置しない

故障や発火の原因になります。



三脚などにカメラやレンズを取り付けたまま移動しない

故障やけがの原因になります。



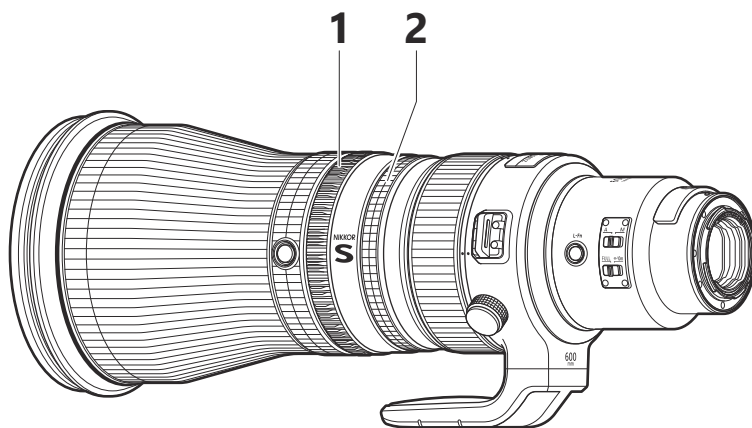
心臓ペースメーカーなどの医療機器からは 5cm 以上離す

近づけ過ぎると、製品に内蔵された磁石が医療機器に影響を与えるおそれがあります。

レンズの使い方

各部の名称と機能

各部の名称と機能は以下の通りです。



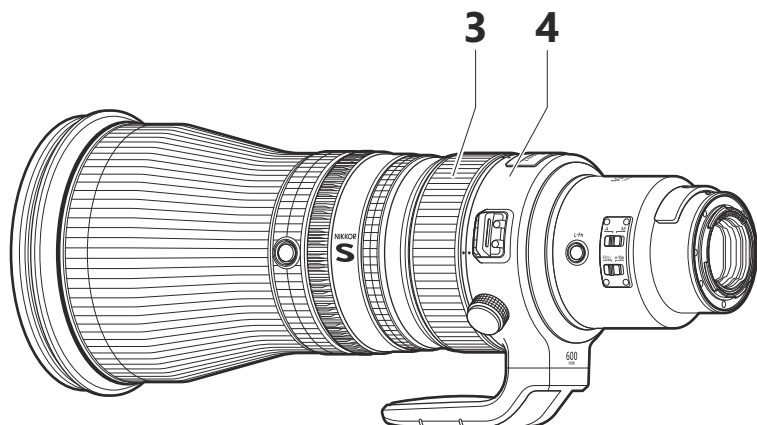
1 Fn リング

レンズにピント位置を登録した状態でこのリングを回すと、レンズに登録したピント位置に瞬時に合わせることができます（メモリーリコール）。

📖 [「メモリーリコールの使い方」](#) (p.29)

2 コントロールリング

このリングを回転させると、**〔絞り〕** や **〔露出補正〕** などカメラで設定した機能を使用できます。詳しくは、カメラの説明書に記載されている **〔カスタムボタンの機能〕** または **〔カスタムボタンの機能（撮影）〕** の説明をご覧ください。



3 フォーカスリング

手動でピントを合わせるときに使用します。

- オートフォーカス時に手動でピントを合わせて撮影する場合は、シャッターボタンを半押しした状態でフォーカスリングを回してピントを合わせます。

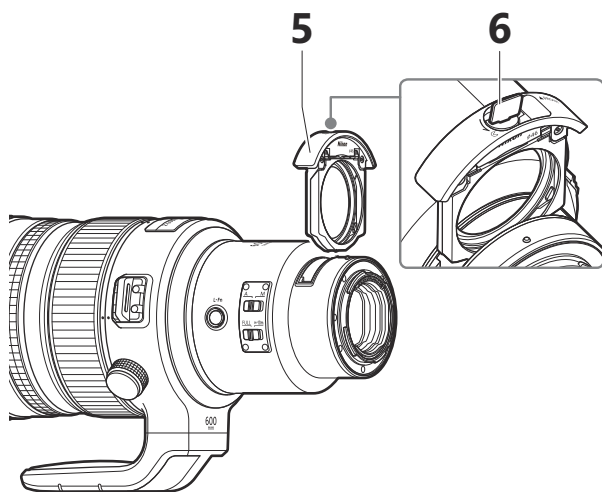
☒ フォーカス機能について

フォーカス機構の構造上、カメラの電源 OFF 時にレンズを振るとカタカタ音がする事がありますが故障ではありません。

4 三脚座リング

三脚を三脚座に取り付けた状態で、カメラの横位置や縦位置を変更することができます。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.36\)](#)



5 組み込み式フィルターホルダー

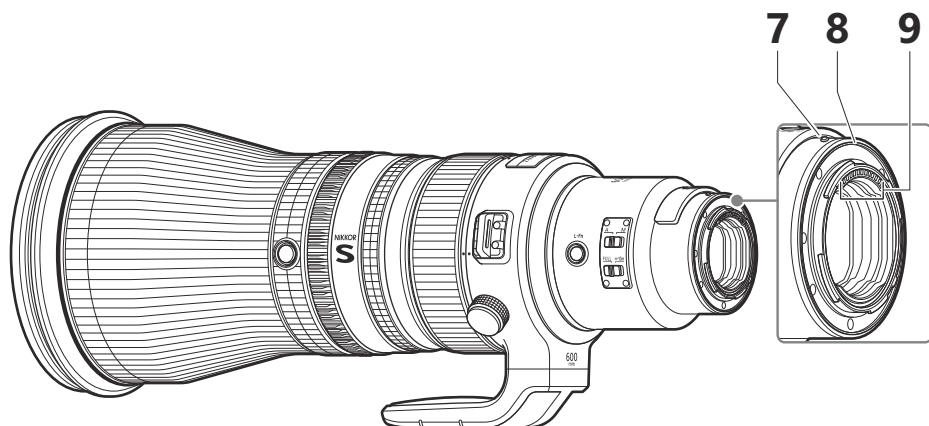
別売の 46mm ネジ込み式フィルターを装着できます。

📖 [「フィルターについて」 \(p.39\)](#)

6 組み込み式フィルターホルダー着脱ノブ

組み込み式フィルターホルダーの着脱時に操作します。

📖 [「フィルターについて」 \(p.39\)](#)



7 レンズ着脱指標

カメラにレンズを取り付けるときの指標です。

📖 [「カメラへの取り付け方・取り外し方」\(p.20\)](#)

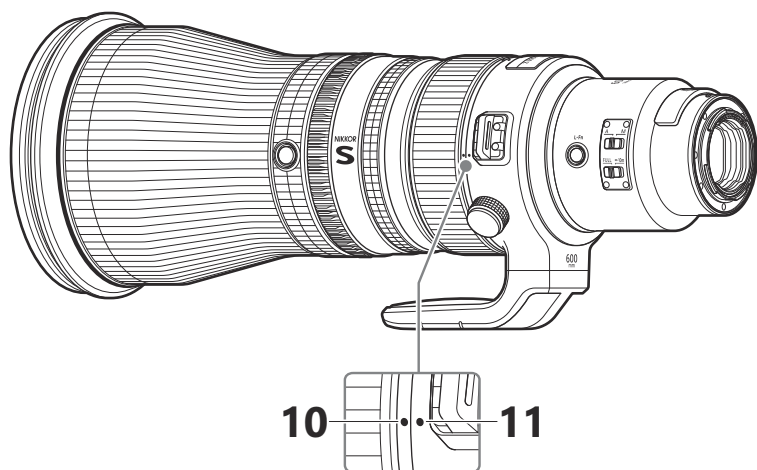
8 レンズマウントゴムリング

レンズをカメラに装着しているときに、レンズとカメラのマウント接合部からの水滴やほこりの侵入を防ぎます*。

* すべての条件で完全な防塵・防滴を保証するものではありません。

9 CPU 信号接点

カメラとレンズの間で情報を伝達します。



10 レンズ回転位置指標

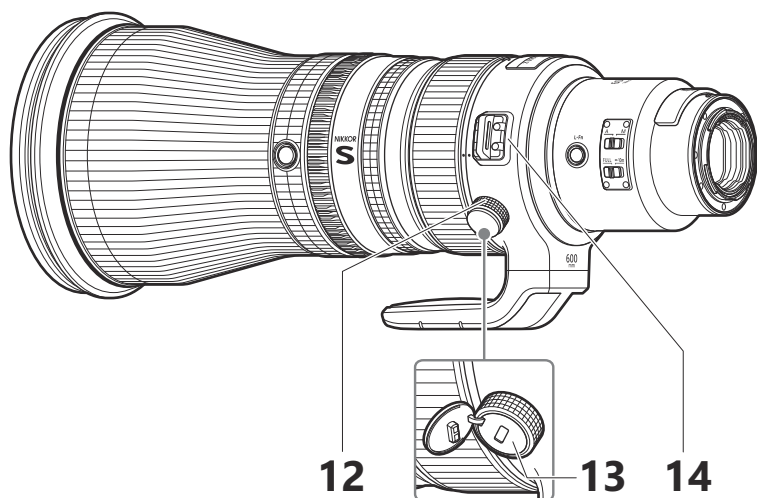
装着したカメラを横位置や縦位置に回転させるときの指標です。90°ごとに4カ所つけられています。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.36\)](#)

11 三脚座リング回転位置指標

装着したカメラを横位置や縦位置に回転させるときの指標です。90°ごとに3カ所つけられています。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.36\)](#)



12 三脚座リング止めネジ

三脚座リングを固定するネジです。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.36\)](#)

13 セキュリティーロット (盗難防止用セキュリティーワイヤー取り付け部)

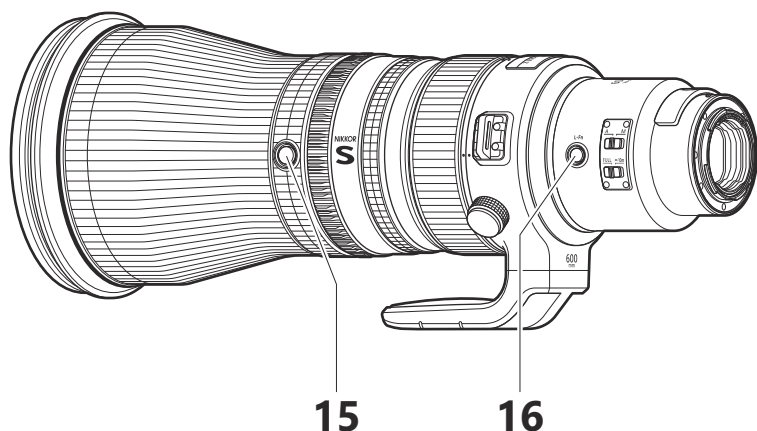
市販の盗難防止用セキュリティーワイヤーを取り付けることができます。

取り付け方はセキュリティーワイヤーの説明書をご覧ください。

14 吊り金具

ストラップを取り付けられます。左右2カ所につけられています。

📖 [「ストラップの取り付け方」\(p.27\)](#)



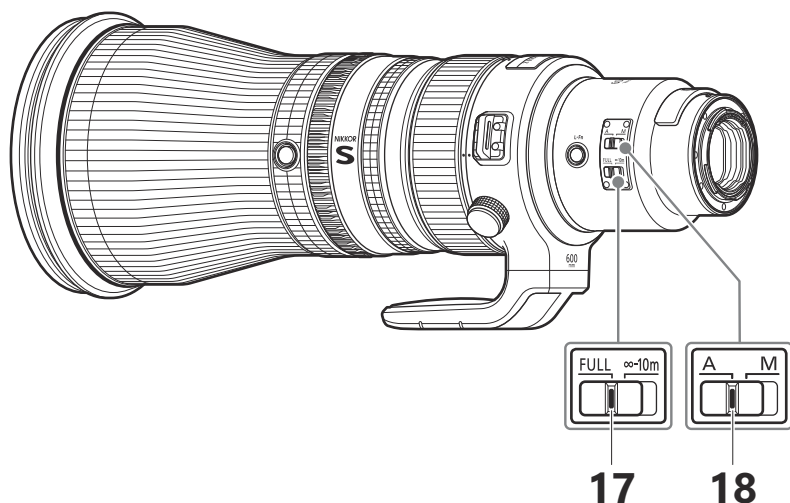
15 L-Fn2 ボタン

このボタンを押すと、カメラで設定した機能を使用できます。詳しくは、カメラの説明書に記載されている [**カスタムボタンの機能**] または [**カスタムボタンの機能 (撮影)**] の説明をご覧ください。90°ごとに 4 カ所つけられています。

- L-Fn2 ボタンの位置を変更 (回転) したい場合は、ニコンサービス機関へお問い合わせください。

16 L-Fn ボタン

このボタンを押すと、カメラで設定した機能を使用できます。詳しくは、カメラの説明書に記載されている [**カスタムボタンの機能**] または [**カスタムボタンの機能 (撮影)**] の説明をご覧ください。



17 フォーカス制限切り換えスイッチ

オートフォーカスでピント合わせを行う範囲を切り換えられます。

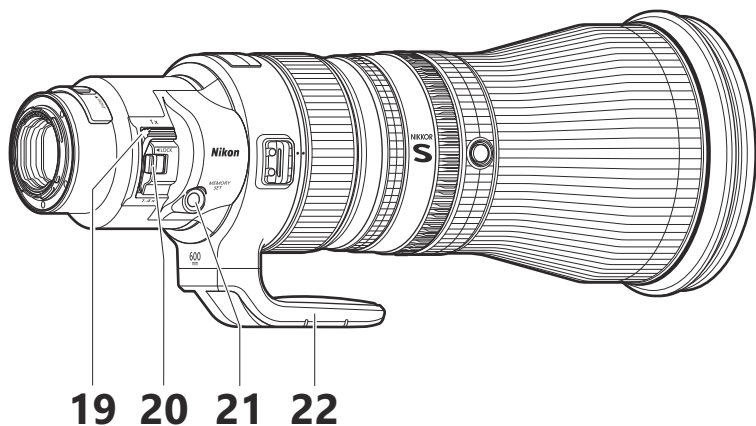
- **FULL** : すべての撮影距離（ ∞ から 4.3 m の全域）でピント合わせが行えます。
- **$\infty - 10\text{ m}$** : ピント合わせを行う範囲を 10 m 以上に制限します。撮影距離が 10 m 以上の場合に、ピント合わせの時間を短縮できます。

18 フォーカスモード切り換えスイッチ

フォーカスモードを切り換えられます。

- **A** : オートフォーカスになります。
- **M** : マニュアルフォーカスになります。

カメラのフォーカスモードがマニュアルフォーカスのときは、レンズで[A]を選んでいてもマニュアルフォーカスになります。



19 内蔵テレコンバーター切り換えスイッチ

レンズの焦点距離を1倍と1.4倍に切り換えられます。

📖 [「内蔵テレコンバーターについて」\(p.31\)](#)

20 内蔵テレコンバーター切り換えスイッチロック

内蔵テレコンバーター切り換えスイッチをロックできます。

📖 [「内蔵テレコンバーターについて」\(p.31\)](#)

21 メモリーセットボタン

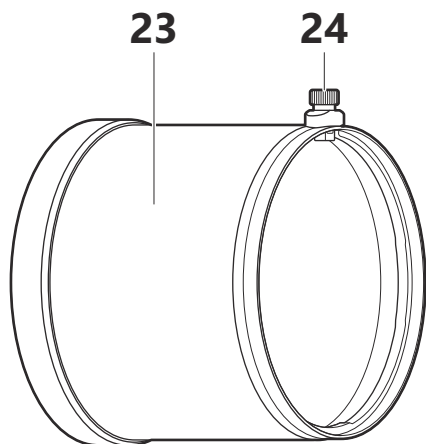
メモリーリコール機能を使ってピント位置を登録するときに使います。

📖 [「メモリーリコールの使い方」\(p.29\)](#)

22 三脚座

三脚を取り付けられます。三脚座を取り外したい場合は、ニコンサービス機関へお問い合わせください。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.36\)](#)



23 レンズフード

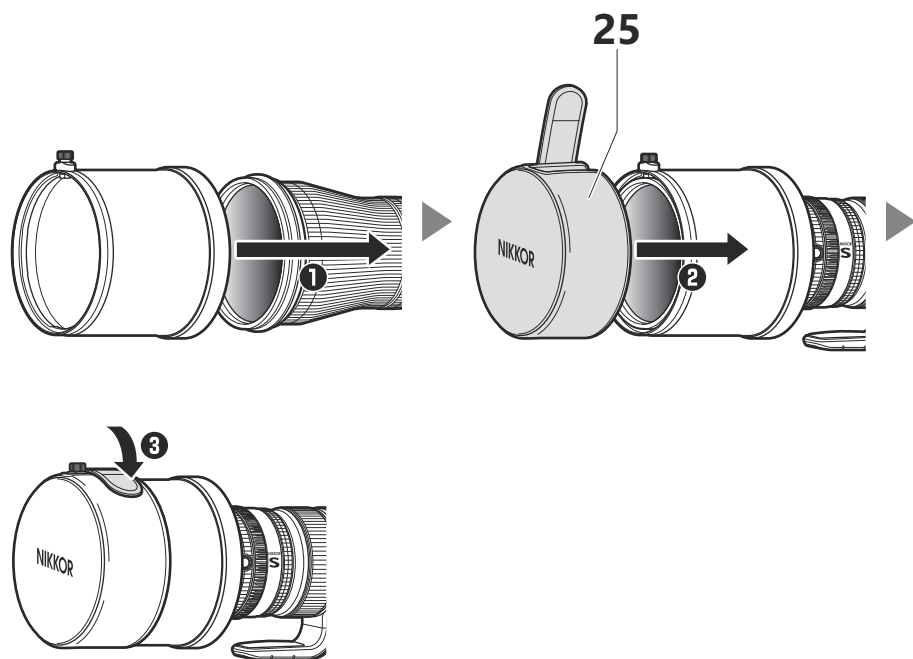
画像に悪影響を及ぼす光線をカットします。レンズ面の保護にも役立ちます。

📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」\(p.25\)](#)

24 クランプノブ

レンズフードをレンズに固定するために使います。

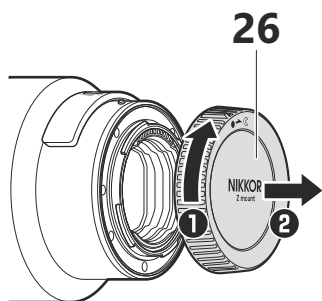
📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」\(p.25\)](#)



25 かぶせ式レンズキャップ（フロントキャップ）

- レンズを持ち運ぶとき、またはレンズをカメラに装着した状態で持ち運ぶときは必ずレンズキャップを取り付けてください。
- レンズフードをレンズに逆向きに取り付けた後に、レンズキャップをかぶせてください。

📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」\(p.25\)](#)

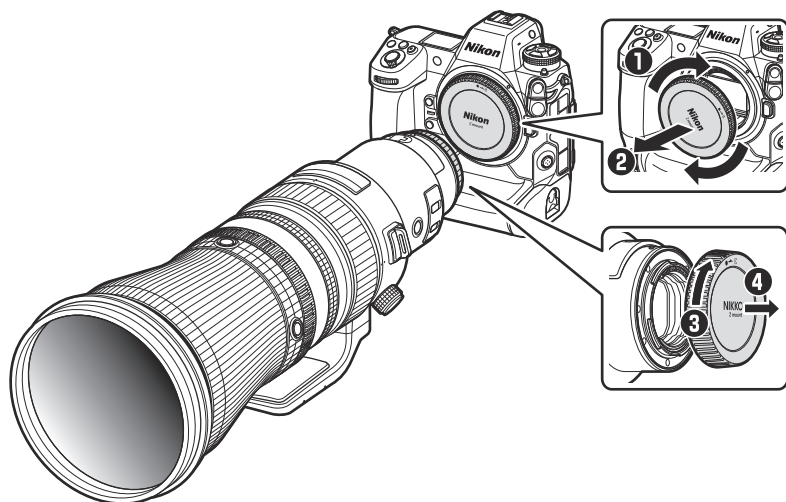


26 レンズキャップ（リアキャップ）

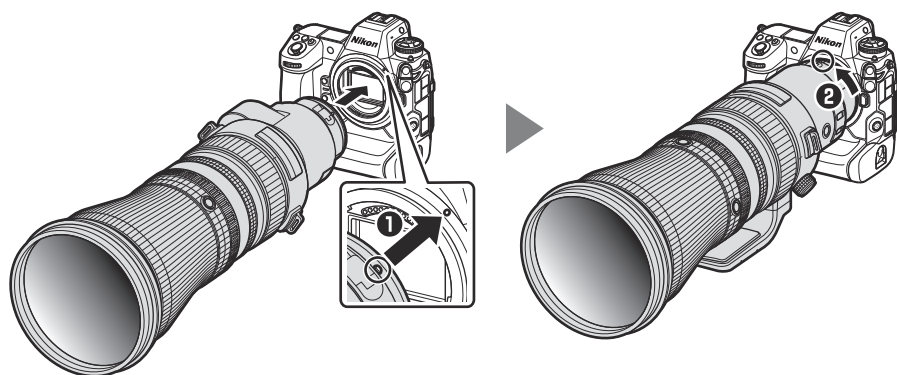
カメラへの取り付け方・取り外し方

取り付け方

1. カメラ本体の電源を OFF にして、カメラ本体のボディーキャップとレンズのリアキャップを外す

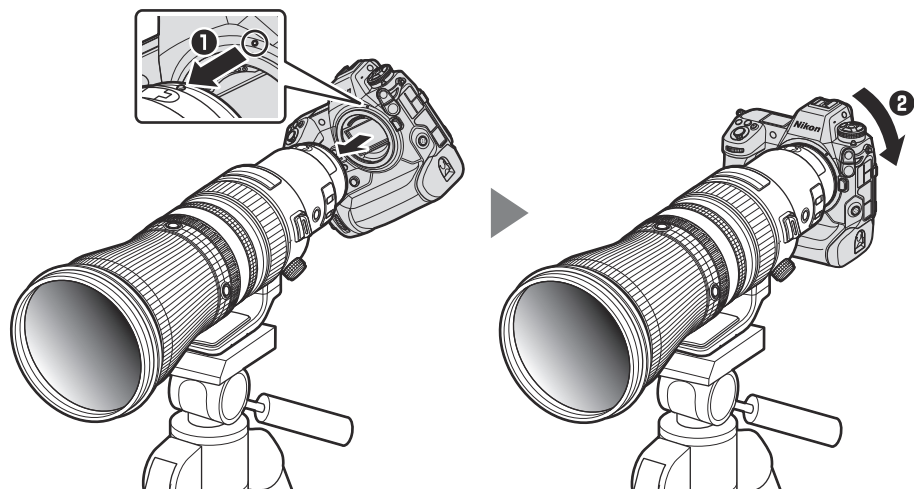


2. カメラ本体とレンズのレンズ着脱指標を合わせ（①）、矢印（②）の方向にカチッと音がするまでレンズを回す



✓ レンズを三脚に取り付けた状態でカメラ本体を取り付ける

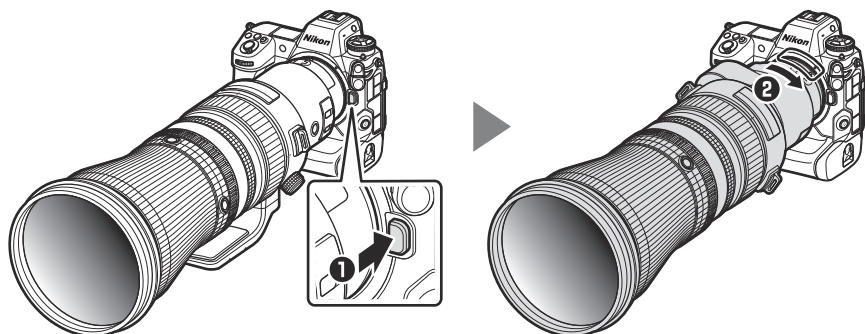
カメラ本体とレンズのレンズ着脱指標を合わせ（①）、矢印（②）の方向にカチッと音がするまでカメラ本体を回してください。



取り外し方

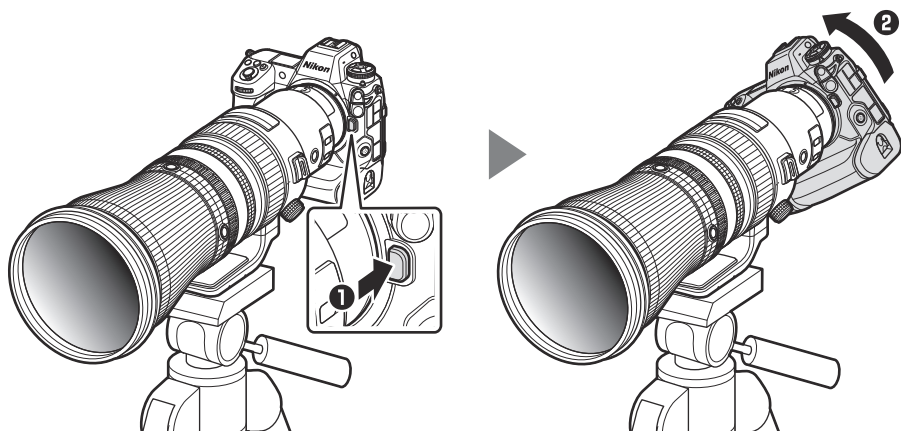
1. カメラ本体の電源を OFF にする

2. レンズ取り外しボタンを押しながら (①)、矢印 (②) の方向にレンズを回して取り外す



✓ レンズを三脚に取り付けた状態でカメラ本体を取り外す

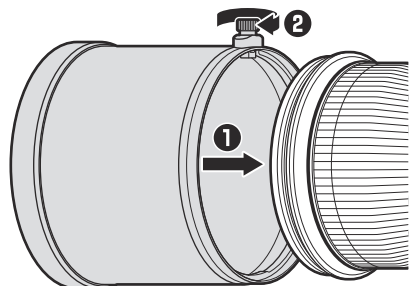
レンズ取り外しボタンを押しながら (①)、矢印 (②) の方向にカメラ本体を回して取り外してください。



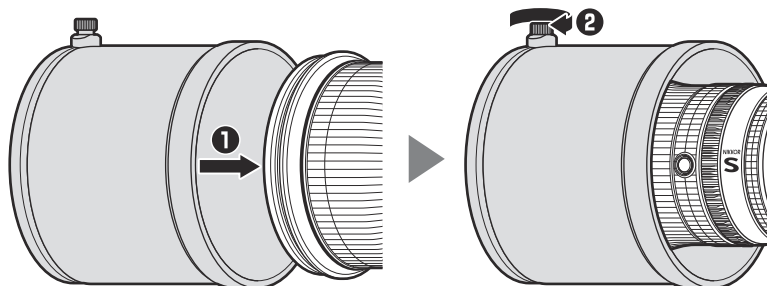
レンズフードの取り付け方・取り外し方

取り付け方

- レンズフードとレンズの先端を図のように合わせてから (①)、クランプノブをしっかりと締めてください (②)。

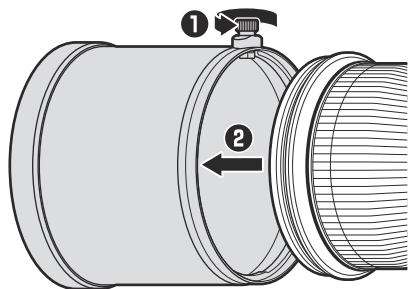


- レンズフードが正しく取り付けられないと撮影画面にケラレが生じますのでご注意ください。
- 収納時はレンズフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。



取り外し方

- 取り付けと逆の手順で取り外してください。

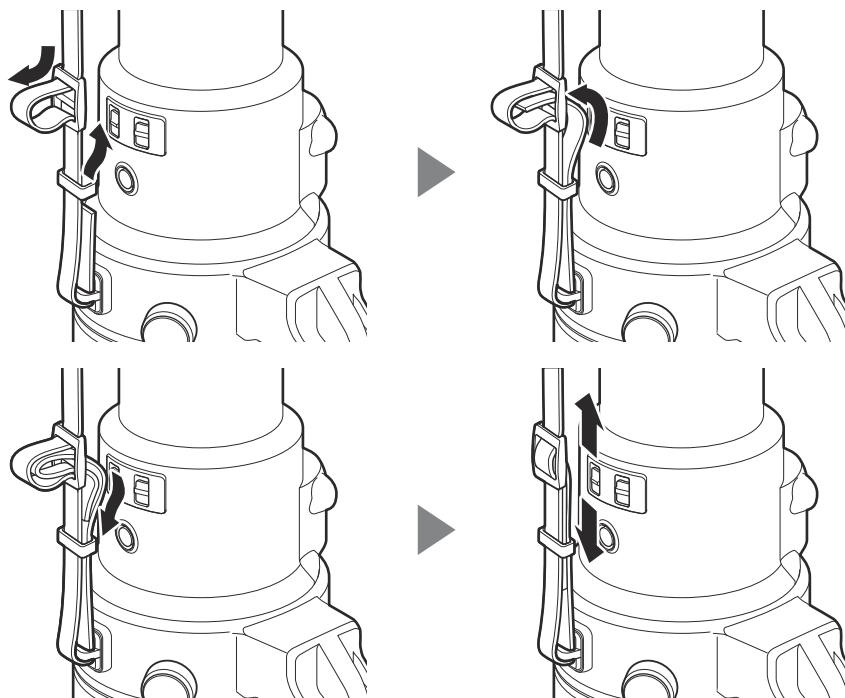


- レンズフードが逆向きに取り付けられているときも、同様の手順で取り外します。

ストラップの取り付け方

ストラップの取り付け手順は次の通りです。

- 誤った取り付け方をすると、不意に外れてレンズが落下し、けがの原因になることがあります。
- レンズを取り付けた状態でカメラを持ち運ぶときは、レンズ用ストラップを使用してください。カメラに取り付けているストラップを使って持ち運ぶと、カメラおよびレンズのマウント部分やストラップが破損して落下するおそれがあります。



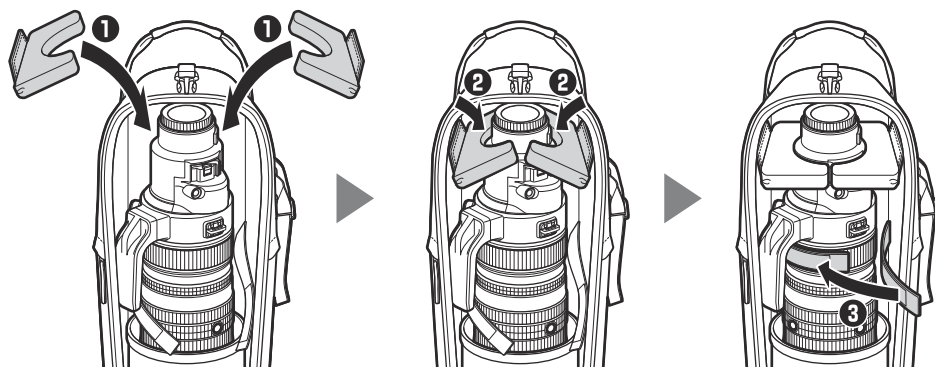
レンズをレンズケースに収納するときの注意

レンズをレンズケースに収納するときは、レンズケースに付属の固定用パッドとレンズケース内側の面ファスナーを使用して、しっかりと固定してください。レンズをしっかりと固定していないと、持ち運び時にレンズやレンズフードが破損するおそれがあります。レンズをレンズケースに入れた後は、次の手順で固定してください。

1. 固定用パッドを図のようにレンズケースの内側に取り付ける (①)

2. レンズと固定用パッドの間に隙間がないようにレンズをはさんで押さえる (②)

3. 面ファスナーをレンズに巻き付けるように貼り合わせる (③)

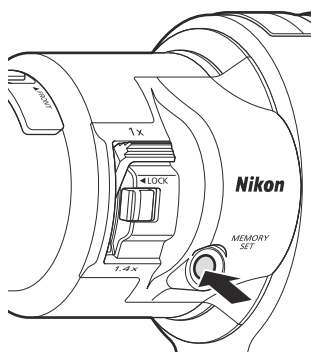


メモリーリコールの使い方

レンズにピント位置を登録して、瞬時に呼び出すことができます。決まったピント位置で頻繁に撮影する場合に便利です。

ピント位置の登録方法

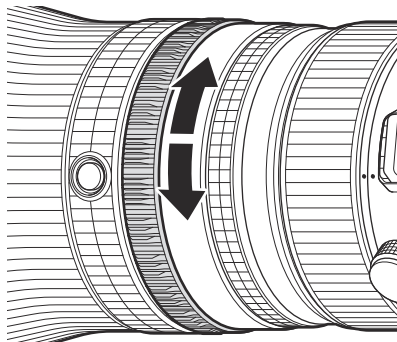
- 被写体にピントを合わせて、メモリーセットボタンを長押しします。ピント位置が正しく登録されると、ピント位置が登録されたことを示すアイコンがカメラの画像モニターに表示されます。



- ピント位置の登録は、フォーカスモードの設定にかかわらず可能です。
- ピント位置を登録すると、カメラの電源を OFF にしてもピント位置が記憶されています。
- レンズをカメラから取り外すと、登録したピント位置がリセットされます。

ピント位置の呼び出し方法

Fn リングを回すと、登録したピント位置にセットされます。Fn リングを回したままシャッターをきくと、登録したピント位置で撮影します。Fn リングを放すと、オートフォーカスまたはマニュアルフォーカスに戻ります。

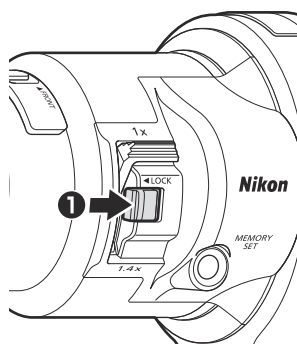


内蔵テレコンバーターについて

内蔵テレコンバーターを使うと、焦点距離を 1.4 倍に切り換えることができます。

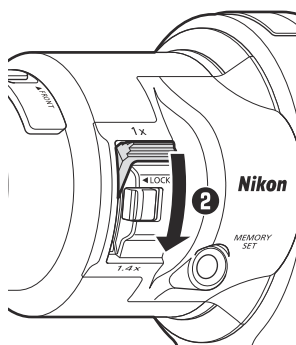
内蔵テレコンバーターの使い方

1.内蔵テレコンバーター切り換えスイッチロックを矢印の方向にスライドする (①)

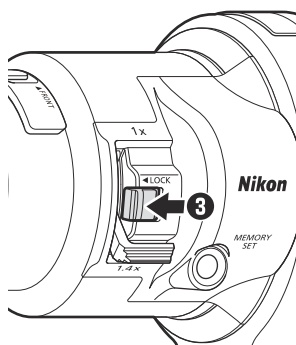


内蔵テレコンバーター切り換えスイッチのロックが解除されます。

2.内蔵テレコンバーター切り換えスイッチで 1.4×に切り換える (2)



3.内蔵テレコンバーター切り換えスイッチロックを矢印の方向にスライドする (③)



- 内蔵テレコンバーター切り換えスイッチがロックされます。
- 内蔵テレコンバーターを使用しないときは、1×に戻してください。

✓ 内蔵テレコンバーター切り換えスイッチのロックについて

焦点距離を切り換えた後、内蔵テレコンバーター切り換えスイッチが不用意に動かないように、内蔵テレコンバーター切り換えスイッチロックで必ずロックしてください。

内蔵テレコンバーターについてのご注意

撮影する画像にケラレが生じたり、適正露出で撮影できなかったり、誤作動が発生する原因となるため、次のような場合に内蔵テレコンバーター切り換えスイッチを操作しないでください。

- オートフォーカス作動中
- 手ブレ補正作動中
- 露光中
- 動画記録中
- AF 微調節の設定中

内蔵テレコンバーター切り換えによるピント位置について

- ピント合わせを行ってから内蔵テレコンバーター切り換えスイッチを操作すると、ピント位置がずれる場合があります。内蔵テレコンバーター切り換えスイッチを操作した後は、シャッターをきる前に再度ピント合わせを行ってください。
- メモリーリコール機能でピント位置を登録している場合、内蔵テレコンバーター切り換えスイッチを操作してメモリーリコールを行うと、登録されたピント位置がずれます。メモリーリコール機能でピント位置を登録する場合は、内蔵テレコンバーター切り換えスイッチを操作してから行ってください。

レンズのファームウェアのバージョンアップについて

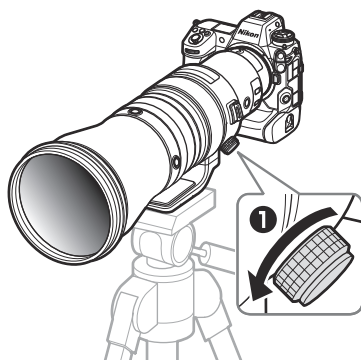
レンズのファームウェアのバージョンアップを行う場合は、焦点距離が 1 倍であることを確認してください。内蔵テレコンバーター切り換えスイッチを操作して焦点距離が 1.4 倍に切り換わっている状態では、ファームウェアのバージョンアップは行えません。また、ファームアップ中に内蔵テレコンバーター切り換えスイッチを操作しないでください。

三脚座リングの使い方

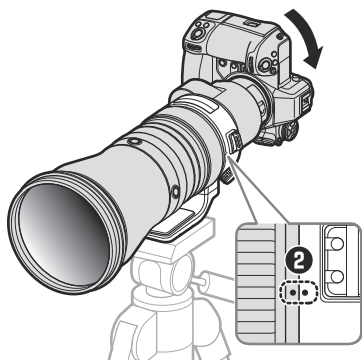
三脚を使用するときは、カメラ側ではなくレンズ側の三脚座に取り付けてください。

三脚をレンズの三脚座に取り付けた状態でも、カメラ位置（縦位置/横位置）を変更することができます。

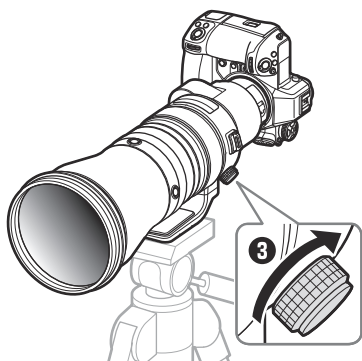
1. レンズの三脚座リング止めネジを少し緩める (①)



2. 位置指標 (2) を目安にしてカメラを回転させる



3. 三脚座リング止めネジを締めて固定する (3)



手ブレ補正機能

このレンズには手ブレ補正機能があります。手ブレ補正機能はカメラで設定できます。詳しくは、カメラの説明書をご覧ください。

手ブレ補正機能を使用すると、使わないときと比べてシャッタースピードを遅くして撮影できるため、シャッタースピードの選択範囲が広がります。

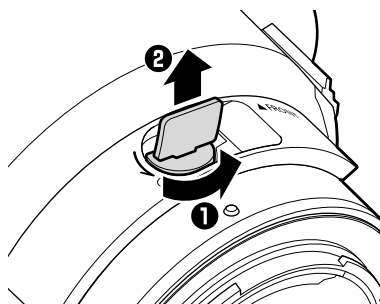
✓ 手ブレ補正機能について

- 手ブレ補正機構の構造上、レンズを振るとカタカタ音がすることがありますが、故障ではありません。
- 三脚撮影時にカメラの手ブレ補正機能を〔**ノーマル**〕または〔**スポーツ**〕に設定すると、三脚ブレを軽減します。ただし、三脚の種類や撮影条件により、〔**しない**〕にした方がよい場合があります。
- 一脚を使用するときには、〔**ノーマル**〕または〔**スポーツ**〕に設定することをおすすめします。

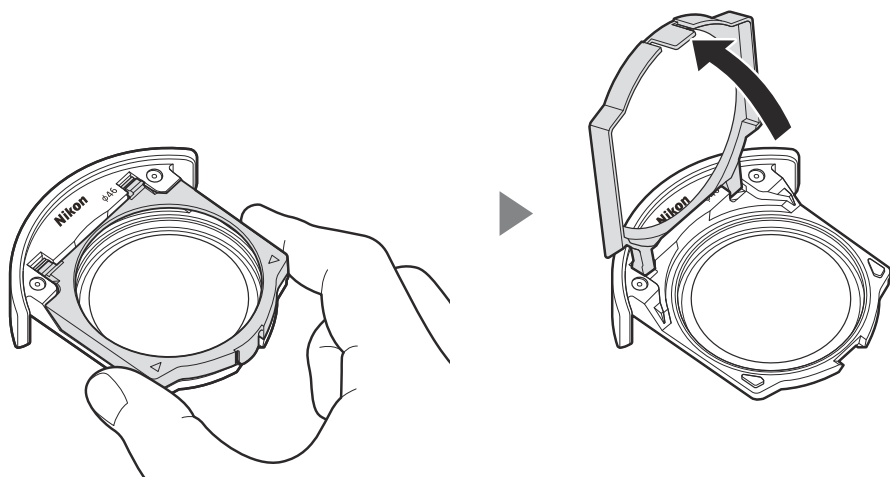
フィルターについて

このレンズはフィルター装着しない前提で設計されているため、通常はフィルターを装着する必要はありません。撮影条件や撮影目的によりフィルターを使用する場合は、次の手順で別売の 46mm ネジ込み式フィルターを組み込み式フィルターホルダーに装着します。

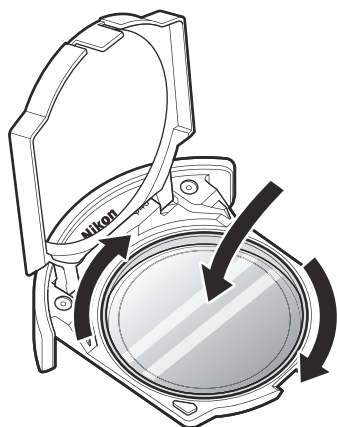
1. フィルターホルダー着脱ノブを引き起こして⌚方向に回し (①)、組み込み式フィルターホルダーを取り外す (②)



2. 組み込み式フィルターホルダー本体左右の▽部分をつまんでカバーを開ける

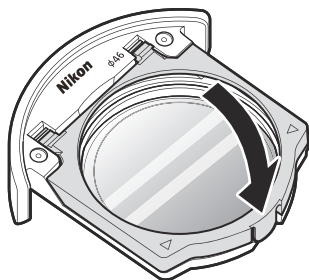


3. 46mm ネジ込み式フィルターをねじ込む

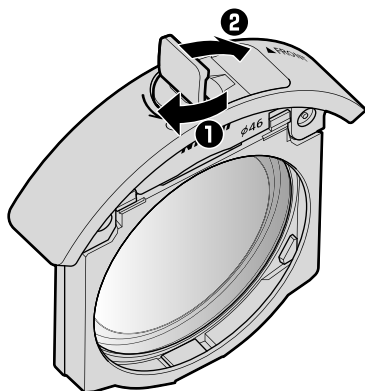


フィルターの形状によっては、組み込み式フィルターホルダーに取り付けられない場合があります。組み込み式フィルターホルダーに合ったフィルターをお使いください。

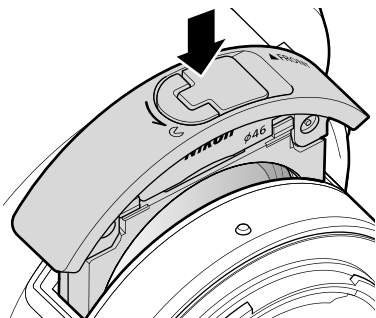
4. 組み込み式フィルターホルダー本体のカバーを閉じる



5. フィルターホルダー着脱ノブを図のように回してから (①)、凹みに倒して収納する (②)



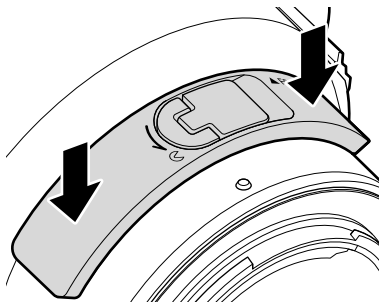
6. レンズの組み込み式フィルターホルダー差込口に、組み込み式フィルターホルダーを入れる



組み込み式フィルターホルダーの FRONT 表示がある側が前（フォーカスリング側）になるように差し込んでください。

7. フィルターホルダーがロックされるまで差し込む

- カチッと音がするまで押し込みます。



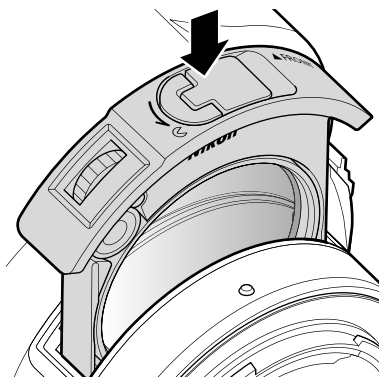
- フィルターホルダーがしっかりとロックされ、外れないことをご確認ください。

別売フィルターを装着する場合

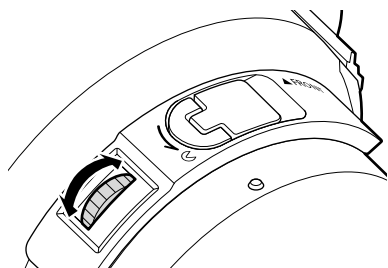
- 別売フィルターを装着するとピント位置が変わり、距離表示が変化することがあります。
- メモリーリコールを使用する場合は、ピントを登録する前に装着してください。

別売の組み込み式円偏光フィルター C-PL460 について

- ガラスなどの非金属面や水面の反射光を抑える場合におすすめします。
- 付属の組み込み式フィルターホルダーと入れ換えてお使いください。



- カメラの撮影画面を見ながら回転リングをまわし、反射光の低減効果を調整して撮影を行います。



- C-PL460 を装着するとピント位置が変わり、距離表示が変化することがあります。
- メモリーリコールを使用する場合は、ピントを登録する前に装着してください。
- 高温、高湿下および太陽光が当たる場所での長時間の保管は避けてください。

取り扱い上のご注意

- レンズキャップやレンズフードだけを持って、レンズやカメラを持ち運ばないでください。
- レンズをカメラに装着しているときは、次のことにご注意ください。
 - レンズをカメラに装着した状態でカメラだけを持たないでください。カメラおよびレンズのマウント部分が破損するおそれがありますので、必ずレンズも持ってください。
 - ストラップを使用して持ち運ぶときは、レンズ用ストラップを使ってください。カメラに取り付けているストラップを使って持ち運ぶと、カメラおよびレンズのマウント部分やストラップが破損して落下するおそれがあります。
- CPU 信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズマウントゴムリングが破損した場合は、そのまま使用せず販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- レンズをカメラに装着していないときは、必ずレンズキャップを取り付けてください。
- 付属のレンズキャップ（フロントキャップ）は、折り曲げるとシワが発生しますが使用上の問題はありません。

- レンズを水にぬらしたり、湿気の多い場所に置かないでください。部品がサビつくなどして故障の原因になりますのでご注意ください。
- レンズを火の近くなど、極端に温度が高くなるところに置かないでください。レンズが変形することがあります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所、または暖かい場所から寒い場所に持ち込むと、レンズ内外に水滴が生じて故障の原因となります。温度差のある場所にレンズを持ち込むときは、あらかじめレンズをバッグやビニール袋などに入れて密閉してください。レンズが周囲の温度になじんだら、袋から取り出してお使いください。
- レンズを傷から守るために、持ち運ぶときはレンズケースに入れることをおすすめします。
- セキュリティスロットに市販のセキュリティーワイヤーを取り付けて使用した際に発生した破損・盗難についての補償はご容赦ください。
- カメラやレンズにクレジットカードなどの磁気製品を近づけないでください。記録内容が壊れることがあります。

お手入れについて

- レンズ面を清掃する場合、通常はほこりを払う程度にしてください。
- 最前面のレンズ面（フッ素コートあり）
 - 指紋など油分を含む汚れがついたときは、柔らかい清潔な木綿の布または市販のレンズクリーニングペーパーでレンズの中心から外周へ渦巻き状に拭いてください。
 - 汚れがひどいときは、少量の真水、無水アルコール（エタノール）、または市販のレンズクリーナーで湿らせた柔らかい布を使って軽く拭いてください。
 - フッ素コート加工されたレンズ面は、撥水性、撥油性が高いため、水滴状の拭き残りが生じることがあります。その場合は、乾いた布で拭き取ってください。
- 最後面のレンズ面（フッ素コートなし）
 - 指紋など油分を含む汚れがついたときは、少量の無水アルコール（エタノール）や市販のレンズクリーナーで湿らせた柔らかい清潔な木綿の布または市販のレンズクリーニングペーパーを使って、レンズの中心から外周へ渦巻き状に拭いてください。その場合、拭きムラや拭き残りがないように注意してください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズを保管するときは、太陽光のあたるところや防虫剤のあるところを避けてください。また、レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。

カメラの AF 補助光を使用するときのご注意

AF 補助光搭載のカメラの場合、AF 補助光がレンズやレンズフードでさえぎられることがあります。

- カメラの AF 補助光を使って撮影するときの制限についての情報は、ニコンダウンロードセンターでご確認いただけます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときの注意

内蔵フラッシュ搭載のカメラの場合、フラッシュの光がレンズやレンズフードでさえぎられると画像に影が写り込みます。レンズフードは取り外して撮影してください。レンズフードを取り外しても、撮影距離または焦点距離によっては影が写り込みます。

- 内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときに影が写り込まずに撮影できる撮影距離と焦点距離についての情報は、ニコンダウンロードセンターでご確認いただけます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

アクセサリ

付属アクセサリ

- レンズキャップ LC-K107（フロントキャップ）
- レンズキャップ LF-N1（リアキャップ）
- レンズフード HK-43
- ストラップ
- レンズケース CL-L3

使用できるアクセサリ

- 46mm フィルター（P=0.5 mm、組み込み式フィルターホルダーに装着可能）
- 組み込み式円偏光フィルター C-PL460
- Z TELECONVERTER TC-1.4x/TC-2.0x

☑ フィルターを使用する場合

フィルターは1枚で使用してください。

☑ テレコンバーターを使用する場合

被写体や周囲の明るさ、フォーカスポイントの位置によっては、オートフォーカスでピントが合いにくい場合や、フォーカスエイドがちらついて表示される場合があります。

仕様

マウント	ニコン Z マウント
焦点距離	・ 内蔵テレコンバーター非使用時：600 mm ・ 内蔵テレコンバーター使用時：840 mm
最大口径比	・ 内蔵テレコンバーター非使用時：1：4 ・ 内蔵テレコンバーター使用時：1：5.6
レンズ構成	20 群 26 枚（うち内蔵テレコンバーター 4 群 7 枚、ED レンズ 3 枚、スーパー ED レンズ 1 枚、蛍石レンズ 2 枚、SR レンズ 2 枚、メソアモルファスコートあり、ナノクリスタルコートあり、最前面のレンズ面にフッ素コートあり）
画角	・ 内蔵テレコンバーター非使用時：4°10'（撮像範囲 FX） ・ 内蔵テレコンバーター使用時：3°（撮像範囲 FX）
	・ 内蔵テレコンバーター非使用時：2°40'（撮像範囲 DX） ・ 内蔵テレコンバーター使用時：2°（撮像範囲 DX）
フォーカシング方式	IF（インターナルフォーカス）方式
手ブレ補正	ボイスコイルモーター（VCM）によるレンズシフト方式
最短撮影距離	・ 内蔵テレコンバーター非使用時：撮像面から 4.3 m ・ 内蔵テレコンバーター使用時：撮像面から 4.3 m
最大撮影倍率	・ 内蔵テレコンバーター非使用時：0.14 倍 ・ 内蔵テレコンバーター使用時：0.2 倍

絞り羽根枚数	9 枚（円形絞り）
絞りの範囲	・ 内蔵テレコンバーター非使用時：f/4 – 32 ・ 内蔵テレコンバーター使用時：f/5.6 – 45
フォーカス制限切り換えスイッチ	FULL（ ∞ ～4.3 m）と ∞ – 10 m の 2 段切り換え
寸法（最大径×レンズマウント基準面からレンズ先端まで）	約 165 mm × 437 mm
質量	約 3260 g

- ・ 本書では、35mm 判カメラに準じた画角（フルサイズ）を「FX フォーマット」または「FX」、APS-C サイズに準じた画角を「DX フォーマット」または「DX」と表記しています。
- ・ 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

サービスとサポート

ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。ご登録いただいた製品に関するファームアップ情報や重要なお知らせなどをメールでご案内いたします。ニコンイメージング会員登録および製品登録は以下ニコンホームページからお手続きください。

ニコンイメージング会員のご案内

<https://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/>

ニコンイメージングサポートページのご案内

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧ください。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。



<https://www.nikon-image.com/support/>